

第72回国民体育大会

我らかく戦う

期日 平成29年9月30日(土)～10月10日(火)
会場 愛媛県松山市ほか

公益財団法人 北海道体育協会

我 ら か く 戦 う

競 技 名	種 別	評価	予想順位・得点	戦 い の 展 望	有 望 選 手 ・ チ ー ム	特 記 事 項
陸上競技	全種別	4	団体8位、得点90点	安定している成年、インターハイで結果を出している高校生、勢いのある中学生、選手全員で強豪県にチャレンジをする。		森周志：山形インターハイ400m 1位 小野寺将次：山形インターハイ400mH 4位 白井文音：山形インターハイ100m 2位 吉田梨緒：山形インターハイ走幅跳 3位 右代啓祐：ロンドン世界陸上出場 小南拓人：ユニバーシアード台湾大会日本代表
サッカー	成年男子	2	団体16位	1回でも多く勝てるよう、守備が重視になるとは思うが戦い抜く。	田中康平(今井金商株式会社)、黒川聖平(六花亭製菓株式会社)	田中基樹、田中康平：兄弟出場
	女子	4	団体1位、得点10点	優勝	星山彩香(ノルディーア北海道)、大家梨緒(神奈川大学)	第71回国体 サッカー 女子 3位 ノルディーア北海道：2016年プレナスチャレンジリーグ5位、皇后杯 3年連続、5回出場
	少年男子	3	団体5位、得点20点	全国レベルの中で、攻撃的なスタイルでどこまで通用するか試したい。	本間洋平(札幌真栄高校)、大和蓮(恵庭市立恵明中学校)	全国クラブユース選手権 ベスト16 本間洋平：北海道コンサドーレ札幌U-18、大和蓮：北海道コンサドーレ札幌U-15
テニス	成年男子	3		日本リーグ出場や日本テニス協会公認大会にて優勝を多数している2選手に実力を発揮してもらいたい。		
	成年女子	3		代表選手は、現インカレ選手と元インカレ選手で好成績をおさめている。ベスト8を目標に臨む。		丹野里佳子：平成29年度インカレシングルスベスト32、山下ちなみ：平成24年度インカレダブルスベスト4
	少年男子	3		代表選手は2人とも初の国体出場ではあるが、ともに実績のある高校で活躍している選手。ベスト8を目標に臨む。		
	少年女子	3		代表選手は2人とも昨年に続く出場。経験を生かし、ベスト8進出を目指す。		
ボート	成年男女	3		昨年準優勝の木村君が優勝を目指します。それ以外のクルーは順位決定戦の進出を目標にポイント獲得を目指します。	木村晶(日本大学)	木村晶：一昨年少年部門優勝、昨年成年部門準優勝
	少年男女	3		少年男子ダブルスカルはこれまで全国大会で活躍した選手を中心にしているので、8位内入賞を目標にしている。その他のクルーは、予選突破を目指している。		
ホッケー	成年男子	2	団体8位	今年のチームは、道外学生と道内の若手(大学でのホッケー経験者)で構成しているので、運動量で本州のチームに挑んでいきたい。	佐藤希一(関西学院大学)	佐藤希一：平成25年のインターハイベスト16
	成年女子	2	団体5位、得点20点	組み合わせ抽選の結果で対戦相手により大きく左右されることになる。		
	少年男子	3	団体5位、得点20点	全国トップチームは非常にレベルが高い。組み合わせによるが、四国ブロック2県と対戦し、是が非でも20点得点したいと考える。	高橋航平(北海学園札幌高校)	布施葵、布施亮太：姉弟出場
	少年女子	2	団体5位、得点20点	3校からメンバーを選出しており、数少ない合同練習の中ではありますが、個々の素質を活かし、チーム一丸となり、1回戦突破を目指して戦いたいと思います。		
ボクシング	成年・少年男子	4	団体8位、得点31.5点	成年：上記記載の選手は、関東・関西大学リーグ戦で活躍しており、実績的には勝ち上がれる力はある。 少年：選手のほとんどが2年生であるが、波に乗れば期待以上の活躍が期待できる。	細野恭兵(近畿大学)、須藤龍揮(札幌工業高校) 本間一志(札幌工業高校定時制)	細野恭兵：第71回国体3位、須藤龍揮：本年度高校総体3位、3年連続出場 本間一志：本年度高校総体準優勝
バレーボール	成年男子	3	団体7位	本国体は、今後のチームの課題を見つけるために非常にいい機会であると考えます。私達は、「成長」を第一に考え、現在は様々なことに挑戦しているため、大会を通じては、自分達の成長のための良い指標が得られると考えます。もちろん、本国体は11月から参戦するVチャレンジリーグで勝利するために、良い経験になると確信しています。今大会では、心身共にベストの状態チームが一丸となり、上位進出を狙います。	古田史郎(一般社団法人北海道バレーボールクラブ)	家近昭彦(監督)、家近晃一(選手)：親子出場
	成年女子	2		一回戦突破を目標にチーム一丸で頑張ります。		
	少年男子	5	団体1位	平均身長が185cmを超える大型チームのため高さを活かし、優勝を狙う。	米村恒輝、菊地光深、工藤泰我(東海大学付属札幌高校) 桜井響也(北海道科学大学高校)	平成29年度全国大会 東海大学付属札幌高校ベスト8、北海道科学大学高校ベスト16
	少年女子	3	団体7位、得点7.5点	インターハイ北海道予選会で優勝した札幌山の手高校のチームを母体として他の2校から優秀な選手を加え道内合宿・道外合宿を重ね上位進出を目指している。	塩出仁美(札幌山の手高校)、平栗弥々(江陵高校)	塩出仁美：今年高校選抜日本代表、ジュニアオールスター選抜、山の手高校：決勝トーナメント2回戦敗退 平栗弥々：ジュニアオールスター選抜
体 操	成年男子	2	団体10位、得点333点	選手全員が国体予選以上の演技で、ノーマスで演技することができれば、10位以内の成績が見込まれる。	高間寛智(はんざわ体操クラブ)	高間寛智：全日本シニア体操競技選手権大会 2部 個人総合優勝 全日本学体体操競技選手権大会 1部 個人総合25位
	成年女子	1	団体10位、得点147点	監督として2年連続の参加ではあるが、選手が落ち着いて力を発揮できるようにメンタル、フィジカルをケアし、全力でサポートしたい。		
	少年男子	2	団体25位、290.75点	競技レベルは低いチームですが、その中で出来る秘策を見つけ、出場チームの中で1番ミスのないチームにする。	大谷直希(とわの森三愛高校)、壁谷日陽(札幌市立琴似中学校)	大谷直希：2017年全国日本ジュニア2部 種目別跳馬優勝、多田悠利：3回連続出場 壁谷日陽：2017年全国中学校大会 種目別跳馬4位
	少年女子	3	団体20位、得点19.10点	初出場のメンバーが多く有意義な経験になる様、ミスの少ない演技、チームの総合力で勝負し予選通過を目指したい。	山下星那(とわの森三愛高校)	
	新体操	3	団体10位、得点15.500点 個人10位、得点12.200点	今年度の選抜大会やインターハイに出場して、私達の実力を十分に発揮することができたので、今回はさらにレベルアップした演技をできるようにし、目標を達成します。	白瀬由佳(北海高校)	白瀬由佳：全国高校選抜大会 総合11位、インターハイ 総合14位 北海高校：全国高等学校選抜大会団体13位、個人総合11位、インターハイ 団体17位、個人総合14位
バスケットボール	成年男子	3	団体3位	初戦を突破すると若いチームなので勢いに乗れると思われる。	大釜賢治(株式会社宮田自動車商会)	過去国体5位入賞
	成年女子	3	団体16位	学生主体のチームであり、若さも体力も十分に発揮される可能性が高い。ディフェンスからの粘りで失点を抑えて、得点につなげるといったスタイルを目指している。フルエントリーのため、どこか他府県と対戦になるかとても楽しみである。必ず勝って北海道の力をコートで発揮していきたい。	尾崎早弥子(桐蔭横浜大学)、池本優衣(北翔大学) 打越裕梨(株式会社メディカル・プリンシプル社)	日本女子学生選抜大会6位
	少年男子	4	団体3位、得点27.5点	激しいディフェンスから、速攻を中心とする試合展開を目指す。	溝口月斗(東海大学付属札幌高校)	溝口月斗：U-18候補選手
	少年女子	3	団体5位	5位または3位を目標に努力したい。	東藤なな子(札幌山の手高校)	東藤なな子：U-18選手
レスリング	成年男子	3	個人3位	久々に有望選手が揃ったので、条件が整えば上位進出を狙わせたい。	大山允長(青山学院大学)、山本康稀(GENSスポーツアカデミー)、山本泰丈(日本大学)	大山允長：2016全日本学生選手権71kg級2位・東日本新人戦2位 山本康稀：2016天皇杯全日本選手権3位、山本泰丈：2016全日本(学生選手権・大学選手権)3位
	少年男子	2	個人1位	競技力は向上しているが、試合数が少ない道内選手が、吞まれず戦い抜けるかが鍵となる。	清水賢亮(帯広北高校)	清水賢亮：2015、2017JOCジュニアオリンピックカップ優勝
セーリング	全種別	3	個人3位、得点6点	毎年継続して得点がとれるよう選手団選手9名、少数精鋭で、特に今年は2種目入賞を目指します。	松苗幸希(北海道セーリング連盟)	松苗幸希：東京国体 成年女子 SH・SR級 3位
ウエイトリフティング	成年男子	3	個人6位、得点3点	二階堂、福本は得点獲得が期待できる。北岡、松本は得点圏に近い位置にいるので、入賞を目指しての戦いとなる。		
	少年男子	4	個人1位、得点8点	小出はインターハイ3位で、入賞が濃厚。橋本、田名部も入賞可能な位置にいる。		小出太郎：全国高校総体+105kg級 3位
ハンドボール	成年男子	2		若手の選手を中心に「守って走る」をモットーに1試合でも勝てるように、自分たちの力をしっかりと出し切りたい。	小澤基(日本大学)、宮本辰弥(国士舘大学)	小澤基、小澤樹：兄弟出場
	成年女子	3	得点20点	個人戦術は道内でもトップレベルなので、1対1など基本を忠実にやっていきたい。また、全体的に若く体力とスピードには自信があるので、ディフェンスからの速攻で得点を重ねていきたい。	竹林千穂、佐々木春海(東京女子体育大学)、渋谷優衣(東海大学) 田頭菜緒(国士舘大学)、稲垣菜々果(北海道医療大学)	
	少年男子	2		初戦突破を目指したい。16チーム出場の大会である。インターハイなら3回戦からのスタートとなる。	山中龍、河村玲児(札幌南陵高校)、木村翔之介(札幌真栄高校) 高橋知也(札幌月寒高校)、橋爪諒(札幌北陵高校)	
	少年女子	2		小学校、中学校で全国大会を経験している選手が多く、この経験値を生かして初戦突破を目指す。	村上真優、笠谷真凜(市立函館高校)	
自転車	全種別	3		少年の部で入賞経験のある中川が技術面と精神面において充実していること、高校3年生になってひとまわり大きくなった大森光明がどこまでやれるか期待が持てる。		
ソフトテニス	成年男子	3	団体8位	一昨年から導入された「シングルス」での勝敗が、チームの勝敗に大きくかかわってくる。シングルスでどう戦うのかプランをより鮮明に描き、チームとしての戦術の徹底を図る。	大塚悠平(南幌養護学校教員)	榊原耕平・河野斗夢：今年度インカレダブルスベスト16、大塚悠平：昨年の国体シングルス全勝 昨年度成年男子初優勝
	成年女子	3	団体7位	2年連続入賞に貢献したエースの濱谷選手が抜けた穴を昨年のメンバー4選手に加え、新たに大学1年生2選手がチームの一員となりました。昨年同様に若さを武器に勢いに乗れば入賞も可能である。	中谷沙希(日本体育大学)、長内夏海(早稲田大学)	2015 和歌山国体第5位、2016 岩手国体第8位、2年連続入賞
	少年男子	3	団体3位	2年生主体のチームで未知数な部分はあるが、練習試合等含め、能力・技術共に全国で十分に戦える戦力である。	藤田大輝、納藤祐典(とわの森三愛高校) 増田達四郎(北海道科学大学高校)	
	少年女子	4	団体6位、得点15点	組み合わせにもよるが、エースペアを第1ダブルスにおき先勝し、シングルスと第2ダブルスのどちらかで勝利していく展開を想定している。	高橋紅羽、佐藤日和(札幌龍谷学園高校)	高橋・佐藤ペア：インターハイ個人ベスト16、連続出場 札幌龍谷学園高校：インターハイ団体ベスト8

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
卓球	成年男子	4	団体5位	5位入賞を目指します。	久住昭博(株式会社タクティブ)、厚谷武志(信号器材株式会社)	
	成年女子	4	団体5位	各選手がベストを尽くし、チーム一丸となり、昨年同様ベスト8以上の成績を目指す。	岡れいさ(JR北海道株式会社)、鎌田那美(早稲田大学)	岡れいさ:H28全日本選手権 混合ダブルス ベスト16、鎌田那美:H28全日学 女子シングルス ベスト16
	少年男子	2		3年生チーム+混成チーム(北科大+駒大苫小牧)の利点を生かして頑張りたい。		佐藤桂輔:第71回国体シングルスベスト32、4年連続出場
	少年女子	4	団体3位		伊藤佑希子(札幌大谷高校)	高山結女子・杉淵菜:インターハイベスト32、伊藤佑希子:全日本ジュニアベスト8
軟式野球	成年男子	3		一戦必勝 投手を中心に守り勝つ。		
相撲	成年男子	2		団体戦:昨年届かなかった決勝トーナメント進出をする。個人戦:予選通過を目指す。 渋谷、佐藤の頑張りが鍵。	杉原健伸(東藻琴福祉会)	
	少年男子	2		団体戦、個人戦共に予選通過を目標とする。2年生3名の頑張りが鍵。	秋山将輝(大野農業高校)	
馬術	全種別	4	団体3位、得点6点 個人4位、得点48点	楠木選手、林選手、少年団体での上位成績を得ることが出来る。少年馬場も例年は棄権していたが今年は馬を連れて行く。得点を取ることを目指す。チーム北海道として団結していく。	楠木貴成(ノーザンファーム)、林伸伍(アイリッシュアラン乗馬学校)	広瀬祥吾、広瀬楓:兄妹出場、広瀬楓:2年前全国高校選手権優勝 楠木貴成:昨年国体ダービー優勝、総合2位、全日本総合選手
フェンシング	成年男子	4	団体8位	フルール種目でできるだけ上位ポイントを獲得し総合順位上位を目指す。		
	成年女子	4	団体8位	サーブル種目でできるだけ上位ポイントを獲得し総合順位上位を目指す。		
	少年男子	3	団体8位	若手ならではのフットワークを生かしたダイナミックなフェンシングでテクニック面をカバーし上位を目指す。		
	少年女子	3	団体8位、得点3点	初戦をうまく戦うことができると、自信をもって戦うことができると考えられる。		土佐林里帆、高野真友:2年連続出場
柔道	成年男子	3	団体3位	今大会は、例年より若い選手で構成されたチームであることから、先鋒の大学生で勢いに乗り、次鋒、中堅がそれぞれ持ち前の力を発揮、副将、大将を抑え、または勝ち点をあげ勝ち進み上位進出を目指します。		
	女子	4	団体3位	団体戦なので先鋒、次鋒の前で勝負し、流れを作って後ろにまわしていきたい。		
	少年男子	3	団体5位、得点7.5点	いかに前半戦で凌ぎ、後半でポイントを取って優位に試合を展開していけるかが鍵。	葛西純坪(北海高校)	葛西純坪:昨年のインターハイ個人戦ベスト16
ソフトボール	成年男子	1		得点をより多く取ることに重点を置き、接戦になるような展開を望む。	佐藤利広(名寄自衛隊駐屯地)	
	成年女子	2	団体5位、得点2点	一戦一戦全力で戦いぬきます。		
	少年男子	1		全国標準のレベルに全くまで届いていないで、非常に不安である。昨年よりは早い取り組みをしているが、練習試合の相手がいけないことや、各校の事情で、なかなか全員が集まることができなく、満足な練習ができていないのが現状である。事前合宿で、どこまで詰めることができるかが課題である。		
	少年女子	2	団体5位、得点20点	まずは初戦。チーム一丸となって頑張ります。		
バドミントン	成年男子	3	団体8位	全員がシングルのポイントを獲得できる実力があるため、シングルスでのポイントをいかに取るかが重要となってくる。相手の戦力を見極めたオーダーが重要と考えられる。	東野圭悟(JR北海道)、渡部大(JR北海道)	東野・渡部ペア:2017ランキングサーキット16位、ダブルス日本ランキング18位
	成年女子	3	団体8位	何としても最初のダブルスを勝たないと勝負にはなりません。試合まではダブルス強化をして、選手三人で誰と組んでも戦える状態にしたいと思っています。3名のうち石澤が国体経験があるため軸にして考えていきます。	安藤理奈(JR北海道)、鈴木麻友(JR北海道)、石澤未夢(北翔大学)	石澤未夢:昨年東日本学生ダブルス準優勝・シングルス5位、インカレ複9位、2年連続出場
	少年男子	3	団体5位	今年は特に力が拮抗していると思うので、すべての試合が競り合いになると思う。接戦の連戦を想定して準備して望みます。	池田佑介(札幌第一高校)	池田佑介:2016インターハイ ダブルスベスト8 及川きらり・深田崇人:2017全国選抜 ダブルスベスト8
	少年女子	2	団体5位	2年次から優勝経験の豊富な西尾・山口ペアがどこまで安定した試合が出来るか、また、昨年補欠選手として国体に帯同した、内山が安定材料になることを期待したい。内山は全国大会ではいつも接戦を演じるかぎりぎりのところで落としている試合が多いので、そういう試合を勝ちきれるかが大きなポイントになる。	内山真希(深川西高校)	西尾樹莉:2015全国選抜団体戦ベスト16、2017全国インターハイ 単ベスト32 西尾・山口:2016全日本ジュニア 複ベスト16、2016全国選抜 複ベスト16
ライフル射撃	全種別	4	個人3位、得点415点	3名の女子選手がいかに上位入賞できるかが鍵。	佐藤櫻子(北海道警察)、佐々木琉杏(北海道科学大学高校)	佐藤櫻子:岩手国体2位、佐々木琉杏:インターハイ5位
剣道	成年男子	5	団体3位	先鋒から中堅までの勝ち星が勝敗の鍵となる。	米花直輝(北海道警察学校)	
	成年女子	4	団体5位	前年度、5位に入賞。今年も3名が力を出し切り初戦突破を目指す。	吉田佳世(北海道警察本部機動隊)	吉田佳世:全日本選手権11回出場
	少年男子	4	団体3位	3年生を中心にチームが一丸となって戦いたい。		
	少年女子	4	団体5位	2年生ながら大将を務める。濱田選手を軸に、全員が一丸となって戦うものと思います。	尾張陽菜、濱田裕佳(札幌日本大学高校)、廣瀬果音(東海大学付属札幌高校)	
ラグビーフットボール	成年男子	2		チーム一丸となって、予選リーグ突破を目指したい。		
	女子	4	団体4位	高校生も若干名入っているが、経験のある日本代表選手や社会人選手とまとまりを見せて、予選リーグを突破し、決勝トーナメントでベスト4を目指す。	小笹知美(株式会社メディカルシステムネットワーク) 日向寺亜依(株式会社オンスホールディングス) 山あずさ(株式会社ファーマホールディング)、中澤佑衣(立正大学) ヴェアタモエフオラウ(札幌山の手高校)	中澤孝弘(監督)、中澤佑衣(選手):親子出場、中澤佑衣:高校生時代、日本ラグビー協会アカデミー選手 小笹知美:日向寺亜依:日本代表選手 山あずさ:元日本代表選手
山岳	成年男子	4	団体10位	激しくしつこいディフェンスでロースコアにもちこみ、一回戦突破を目指す。		
	成年男子	4	団体10位	毎日トレーニングしたことを試合で出し切って、悔いの無い試合をして欲しい。		
	成年女子	5	団体1位、得点24点	去年も同じメンバーだったが、国体直前で小武選手が怪我をして出場出来なかった悔しさを今年は晴らしてくれるものと信じている。優勝を狙っていききたい。	小武芽生(女子栄養大学短期大学部)、萩原亜咲(Whipper Snapper Gym)	小武芽生:IFSC クライミング・ワールドカップボルタリング 重慶2016 4位、南京2017 6位 萩原亜咲:IFSC クライミング・ワールドカップボルダリング 加須2016 25位 成年女子2度全国優勝、14年連続出場
	少年男子	3	団体6位、得点9点	国体の山岳競技は二人の成績の合計でチームの順位を決めるので、二人そろって同程度の成績を出せば上位進出のチャンスは十分あると思います。リード競技よりボルタリング競技に期待が持てます。まず予選突破を目指し、決勝ではさらに上位を目指します。	坂本大河(札幌市立常盤中学校)、竹内悠真(立命館慶祥中学校)	坂本大河:全日本クライミングユース選手権ボルタリング競技2017 ユースB 11位 竹内悠真:全日本クライミングユース選手権ボルタリング競技2017 ユースB 16位
少年女子	3	団体8位、得点3点	いくつもの全国大会を経験している二人なので、練習の成果を活かし、入賞出来るよう挑みます。	北谷未紗(遠軽高校)、上原子瞳(札幌静修高校)	北谷未紗:2017日本ユース選手権ユースA リード15位、ボルダリング15位、4年連続出場 上原子瞳:2017日本ユース選手権ユースB リード28位、ボルダリング20位	
アーチェリー	全種別	4		成年を中心に全種目での入賞を目指している。	中村純銘(日本体育大学)	
銃剣道	成年男子	3	団体8位、得点3点	大将の増本選手まで回す試合展開で、粘りの勝利をねらう。	村上泰啓(陸上自衛隊)	村上、増本:共に高校生時代、国体で入賞経験有
	少年男子	4	団体3位、得点18点	3名が一丸団結し、自己の実力を出し切り、準決勝まで進出し目標を獲得することを望む。	松浦豪士(陸上自衛隊)	松浦豪士:国体個人3位、寒河江優斗:国体個人優勝
空手道	全種別	4	団体5位、得点12.5点 個人8位、得点20点	絶対的エースである成年女子形の岩本選手が、国際試合と重なったために出場できなくなったが、ベテラン選手と若手選手がチームワークよく、本大会に臨めるため、総合8位入賞を目指していきたい。	住友優里(同志社大学)	
クレー射撃	成年男子	5	団体3位、得点34点 個人1位、得点96点	初出場がトラップ・スキート各1名で、緊張による失点をいかに少なくするかが鍵となる。	山下貴紘(北泉開発株式会社)、石田智巳(株式会社みらい建築工房舎)	山下貴紘:H29年Aクラス昇格 石田智巳:H29年夏季本部公式Bクラス6位入賞
なぎなた	成年女子	3	団体8位、個人8位	試合経験を生かした、落ち着いた安定した試合・演技を展開したい。		
	少年女子	4	団体8位、個人8位	落ち着いた、粘り強い試合運びで競り勝つ気持ちで挑みたい。		
ボウリング	成年男子	4	団体8位、得点3点	競技種目は4人チーム戦、2人チーム戦及び個人戦となっている。昨年度、4人チーム戦で6位入賞、2人チーム戦で5位入賞を果たしたものの、4人チーム戦は僅差での決勝進出であり、2人チーム戦では決勝で順位を落としている。大会では早期のコンディション把握に努め、チームワークを発揮し、まずはチーム戦での入賞を目指したい。		第71回国体 4人チーム戦 6位入賞 2人チーム戦 5位入賞(小濱和音、保木慎吾) 保木慎吾:11回連続出場
	成年女子	3	団体5位、7位、得点18点 個人7位、得点2点	厳しい戦いが予想されますが、清野えみり選手の若さと他の3選手が豊富な経験を生かした戦いのできるよう組み合わせを考慮して、全員が気持ち良く力を発揮できるような雰囲気づくりに努力したいと思っています。	清野えみり(株式会社竹老園)、保木絵理(医療法人社団恒仁会新さっぽろ小児科)、古賀直美(札幌市北清掃事務所)、村瀬聡子(北海道ボウリング連盟)	保木絵理:8回連続出場
	少年男子	3		豪快な五十嵐、安定感のある番井で、五十嵐が一定の成績を残してくれると団体戦の入賞のチャンスがある。		番井優人:2年連続出場
	少年女子	4	団体5位、得点12点 個人8位、得点1点	出場する2名は昨年団体戦で入賞でき、今年も引き続き同じ支部と一緒に練習している。今年の東日本選手権では、2人が成人2人と組んだ4人戦で3位に入賞するなど、道外大会での結果もあり、爆発力があるので期待している。個人戦でも、2名とも入賞できる実力はあり、特に工藤ひかる選手は4度目の国体出場であるので入賞を期待している。	高橋咲紀、工藤ひかる(函館大妻高校)	高橋咲紀、工藤ひかる:H29東日本選手権 4人戦第3位、4年連続出場
ゴルフ	成年男子	5	団体1位	片岡選手はアンダー、植竹選手もイーブンもしくはアンダーが見込まれる。長谷川選手が大きく崩れなければ、チームトータルもアンダーの可能性が大きい。		片岡尚之:日本アマチュアゴルフ選手権13位タイ、日本学生選手権27位タイ
	女子	4		強いメンタルで3選手がこの大会で普段通りにプレーが出来たら上位入賞も狙えるので頑張りたい。	吉本ここね(札幌光星高校)	政田夢乃:平成29年度全国高等学校ゴルフ選手権大会 優勝
	少年男子	3	団体15位	団体はなんとか15位前後を目指したい。個人に関しては、小村選手に入賞してもらいたい。	小村優太(札幌龍谷学園高校)	
高校野球(軟式)	少年男子	3	団体3位	北海道大会、選手権大会同様2、3点とって勝つ戦いをしていきたい。	長 大聖(登別明日中等教育学校)	2017年度全国高等学校軟式野球選手権大会ベスト4、2年連続出場